

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2016)

埼玉県で 2016 年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 131 株でした。検出された 131 株の血清型・毒素型別を下表に示しました。血清型では 10 血清型が検出され、最も多く検出された血清型は例年通り O157:H7 で 87 株 (66.4%)、次いで O26:H11 が 23 株 (17.6%)、O157:H- が 10 株 (7.6%) であり、その他の血清型の検出数はそれぞれ 3 株以下にとどまりました。その中には、当初 O 血清型不明 (VT1) で届出がなされ、その後の検査により O76 と同定された例がありました。毒素型では、VT2 のヴァリアントである VT2e が検出されました。131 株のうち 41 株 (31.3%) は患者発生に伴う家族等の接触者検便や従事者等に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。血清型別の非発症者からの検出数は O157:H7 が 20 株と最も多く、次いで O26:H11 の 11 株、O157:H- の 5 株の順で、O26:H11 及び O157:H- では非発症者からの検出が約半数を占めました。

表 検出された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数 (2016)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7		36	51	87
O157:H-		2	8	10
O26:H11	23			23
O111:H-	2		1	3
O8:H9		1*		1
O76:H19	1			1
O121:H19		1	1	2
O128:H2			1	1
OUT:H45		1		1
OUT:H-	2			2
	28	41	62	131

*:VT2e

検出株の遺伝子型別では、従来実施してきた PFGE 法に加え、MLVA 法による型別を実施しました。O157:H7 は 87 株が PFGE 法では 42 型、MLVA 法では 48 型に分けられ、O26:H11 では 23 株が PFGE 法では 11 型、MLVA 法では 13 型に分けられました。地域の異なる散発例において、どちらの型別でも同じグループに型別され、共通の感染源が疑われた例が複数ありました。

2016 年は 2015 年の検出数 (137 株) と同程度の検出数でしたが、今後もその動向を注視する必要があります。